

にしがま線げんき戦略（案）

— 名鉄西尾・蒲郡線活性化実施計画 —

I 計画策定の経緯

平成 23 年 3 月に名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会において、同路線の利用促進に係る重点目標が設定され、平成 25 年度以降の鉄道運行の存続に向けて平成 24 年度の目標達成に向けた実施計画（アクションプラン）が策定された。

計画主体は、西尾市・蒲郡市の市民応援団を中心に地域住民、経済界、行政、交通事業者が一体となって組織する名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会であり、利用促進と沿線の活性化を目的とする。

平成 22 年度からの 3 年間の取組では、年間輸送人員は目標数値に及ばなかったものの、利用促進活動の甲斐あって増加傾向となった。引き続き、平成 25 年度から平成 27 年度の鉄道存続が決定され、重点目標を設定し、目標達成に向けた 2 期目となる実施計画の策定に至る。

鉄道運行の存続に対しては、愛知県から 2 市の支援額の 3 分の 1 を維持対策費特別補助金が交付され、平成 25 年度からの 3 年間については激変緩和措置がとられ段階的に減額する形で補助対象となった。

平成 28 年 3 月に名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会において、運行継続と重点目標が決議され、それを達成するために 3 期目となる新たな計画を策定する。

II 計画の期間

平成 28 年 4 月に平成 28 年度以降の鉄道存続について、西尾市・蒲郡市・名鉄の 3 者で確認書を取り交しました。その内容は、現行どおり名鉄の鉄道運行に対して、西尾市・蒲郡市は 5 年間、毎年 2 億 5 千万円を支援するというものである。

したがって、実施計画は平成 28 年度から平成 32 年度の 5 か年とし、目標年度を平成 32 年度とする。

III 戦略の転換

【現状分析から】

西尾・蒲郡線の駅別一日平均乗降人員（平成 26 年度）を見ると、三河鳥羽駅、西幡豆駅、東幡豆駅、こどもの国駅、蒲郡競艇場前駅の利用が少なく、西尾駅を利用する 9,828 人のうち、蒲郡方面については 1,014 人とどまっている。

このような構造的な現状を踏まえて分析する必要があるため、ポイントとなる地区を絞り、域内移動と来訪の可能性の2点について分析を行った。

■ 沿線利用者の将来的要因

- ① 幡豆地区の人口は減少傾向にある。
- ② 都市計画マスタープランにおいて幡豆支所及び駅周辺に都市機能の集積が掲載されているが、現在のところ事業化の動きはない。
- ③ 利用促進活動の事業内容の充実及び規模拡大には財政負担を伴う。

■ 観光集客及び社会移動の潜在性

- ① 平成9年に東幡豆の観光スポットが閉所されて以降、鉄道利用者は減少の一途を辿り、平成9年と比較すると4割近く減少に至っている。既存の地域資源が観光集客に十分活用されているとは言えず、例えば、駅をシンボルとした周辺の観光資源の発掘や地域資源のブラッシュアップなど新たな価値創出の余地はある。ターゲットを名古屋市をはじめ鉄道利用の見込めるエリアの都市生活者とし、こうした人たちの視点で地域資源の再評価を行うことが必要である。
- ② 医療施設や学校施設の建設の予定はないが、近年利用が低迷している愛知こどもの国については、**現在の用途**^{※1}を基本としながら、平成27年度実施の**地域協働事業**^{※2}の実績をもとに、施設を充実することにより、キャリア教育の受け皿としての活路を見出し、県に要望していくことも考えられる。

※1) 児童総合遊園施設…豊かな緑と日ざしのもとで、次代を担う児童の健全な育成を願い、自然の中での遊びを通して児童の健康増進と豊かな情操を養うことを目的としています（ホームページより）。

※2) 地域協働事業…施設の維持管理に要する負担の軽減を図るため、県から指定管理者の指定を受けて管理運営を行う地元団体が、施設の活性化を図るため地域の関係団体等と協働で行う事業で、平成27年度は子どもたちだけで創る子どもの王国「あいちマーブルタウン」を実施。名鉄利用者数も伸び、近年にない入場者をカウント。参加者からは多くの再来ニーズが寄せられた。

■ 分析の結果から

沿線地域の人口増加の要素がなく、利用促進だけでは現状維持すら厳し

い見通しである。また、医療施設や学校施設の新設計画もなく、社会移動の増も見込めないことから、域内における利用促進に依存するに留まらず、駅周辺の資源に価値を見出し、再び観光客を呼び込むことにより鉄道存続に向けて取り組んでいくことが不可欠である。

そこで、関係団体が課題や今後の方向性を共有できるよう、次のとおりスローガンを掲げる。



IV 計画の性格

これまでの実施計画は、利用促進の重点項目をベースに達成手段を整理したものであるが、計画主体側の見込み目標であり、結果は微増を続けている状況にあるが、ピークに近い実績数値であり、今後は、基礎となる人口が減少していくため、現状を維持することでも大きな負荷がかかる。

今回の運行存続が、平成 28 年度から 5 年間に伸びたことにより、平成 33 年度からの運行及び支援の継続の結論を出す時期までに、施策の試行～検証～効果の発現という過程を踏まえて状況改善に取り組む期間が生み出された。

そこで、計画段階は、戦略的かつベンチャー（野心的、冒険的）精神をもって誘客推進の柱となる戦略を絞り込んでいくことが重要である。実施段階では、沿線自治体、地域住民、経済界及び事業者である名鉄がそれぞれの役割を担い、補完し合いながら一体となって取り組む。PDCAによる進行管理を行い、その都度、改善や改良を施しながら、着実に成果を収めていく体制の整備が必要となる。

V 推進体制の充実

【現在の組織と活動概要】

○ 名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会

沿線自治体の市民応援団が中心となり、地域住民、経済界、行政、交通事業者で組織され、主に利用促進のための実施計画の策定や利用促進及び沿線地域の活性化等に関する活動を行う。

○ 名鉄西尾・蒲郡線応援団及び市民まると赤い電車応援団

西尾市、蒲郡市において、町内会をはじめ教育、福祉、文化・スポーツ、商工、観光、市民活動等の関係団体により組織され、名鉄西尾・蒲郡線存続のためのPR活動や利用促進活動等を行う。

○ 名鉄西尾・蒲郡線(西尾駅～蒲郡駅)対策協議会

存続が危ぶまれる中、事業者である名鉄と沿線自治体が対応策を調査・協議する場として組織され、現在は、西尾市、蒲郡市、愛知県で構成され、オブザーバーとして名鉄と中部運輸局が参画。

【組織の再編】

- 機能分担の明確化
利用推進活動を担当する部門と誘客促進活動を担当する部門を設置
- 構成団体の充実
誘客推進に関する行政の担当部署の参加
- 県の公共交通・観光との連携

今後の指針

i 重点目標

名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会で決定した年間輸送人員の目標について、平成 28 年度から平成 32 年度までの支援期間内で設定し、利用促進・活性化策を充実させることによって、更なる利用者増加を見込み、以下のとおり数値目標を設定する。

平成 25 年度から平成 27 年度までの利用促進重点目標では、年平均 1.06%の増加を設定したところ、市民の方々の利用促進活動などのご協力により目標を達成できました。今回の目標は、最近の利用者増を考慮して前回の目標を上回る年平均 2%の増加を目指すものとし、以下のとおり目標値を設定する。

なお、目標値については、必要に応じて期間の中間で見直すものとする。

最終年度目標（平成 32 年度）	
目標値	3,673,000 人
目標伸率(27 年度見込値比)	+10.3%

年 度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
目標値	3,395,000 人	3,462,000 人	3,531,000 人	3,601,000 人	3,673,000 人
伸率(前年度比)	+2%	+2%	+2%	+2%	+2%

ii 誘客推進

名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会の構成団体の中から、観光交流に関わる団体より選出した誘客推進部会を設立する。

部会では、地域資源を掘り起こし、沿線の店舗や事業所等を有する事業者に参加を働きかけ、協働により商品化を進める。

また、「にしがま線」ブランドにより沿線地域のイメージアップを図り、ツアー企画等への活用を促す。

iii 利用促進策

これまでの名鉄西尾・蒲郡線活性化実施計画で行ってきた事業により各種効果もあり、名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）の、利用者数は増えており、特に通勤定期利用者の増加率が堅調である。路線別では、西尾線は利用者が増加し、蒲郡線は横這いである。券種別でみると、定期と定期外の利用者数を比較すると定期外の割合は少ない状況である。

平成28年3月30日開催の名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会で「名鉄西尾・蒲郡線利用促進重点目標」を決定し、以下のとおり重点項目と決めました。

重点項目
○西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）における定期外の利用者の更なる増加
○蒲郡線（吉良吉田駅～蒲郡駅）における重点的な利用促進策の展開

重点項目の更なる充実・強化を実施し、利用促進・沿線の活性化を図るため以下の項目に取り組む。

項目
沿線住民や団体等の積極的な関与による利用促進・活性化策の推進
自家用車通勤者へ通勤手段の転換を働きかける取組の強化
路線バスやコミュニティバスとの相互利用促進と接続の強化
沿線施設である愛知こどもの国や近隣市町、民間事業者も含めた地域間の連携・協力による、イベント広報・PRの強化
駅周辺の景勝地・食など地域資源を最大限に活用した観光客の誘致

これらの項目を実施するため、以下の内容を行う。

内 容
事業所によるエコ通勤や定期を利用しての通勤。学生の通学の電車利用の推進
各種団体が行うイベント広報と電車利用の案内
学校関係者への利用促進及び啓発
二次交通であるバス等の相互利用と接続の強化

事 業
西尾市親子利用補助・団体利用補助
西尾市・蒲郡市による鉄道利用のための出前講座
はず夢ウォーク
蒲郡市温泉宿泊割引の実施（宿泊料金を 1,000 円割引く、先着 1,000 名）
西尾市・蒲郡市職員によるエコ通勤・エコモビ
西尾市・蒲郡市職員による通勤定期利用推進
竹島水族館・生命の海科学館入場料無料企画
蒲郡・西尾市老人クラブによる合同健康ウォーキング
地区ウォーキングイベント（ちょこっとウォーク等）
友引市での利用促進
にしがまシーサイドウォークへの協力
名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会
企業による利用促進（定期利用促進、イベント・親睦会での利用啓発）
祭礼に伴う利用啓発（鳥羽の火祭り、ごりやく市等）
商工イベントに伴う利用啓発（吉良まつり、蒲郡まつり、あじさい祭り等）
観光協会主催のイベントに伴う利用啓発（グラウンドゴルフ大会等）
幼稚園・保育園の行事等での電車利用
小学校・中学校・高等学校の行事等での電車利用
部活動における移動のための電車利用
西尾高校「名鉄西尾・蒲郡線体感ウォーク」に協力
蒲郡市ジュニア吹奏楽団の演奏会における電車利用
あさひが丘スケートリンクによる滑走料無料企画
愛知こどもの国との連携による利用促進
観光協会等によるレンタサイクルの活用